

まつたので、仁王におうさまがケサけさをほしておいたという、ケサ石けさいしというところもあるそうです。

朝日山の炭やき太郎

むかしむかし、力のちから大変強たいへんつよい、そして、目のひじめようによくきく、炭やきの太郎たろうといふ若者わかものが、朝日山あさひやまのふもとにすんでいました。

太郎は、遠とおくの山まで、その良よくきく目で炭すみにする良い木よきをさがし、その力でどんなどころからも木木をきりだし、はこびだしてしまって、できる炭すみは良いものばかりで、炭やきの名人めいじんと仲間なかまからいわれていました。

その日も、太郎たろうは朝日山あさひやまの頂上ちょうじょうから、遠とおくの山を見みおろしていました。そして、ふだんにゆうわな顔つきかおが、村むらの方ほうに目めをやるとけわしいぎぎようそくになり、そばにあ